



ヒューマンコミュニケーショングループ
Human Communication Group
ニューズレター
 2005年度 No.2
 URL: <http://www.ieice.org/hcg/jpn/>

Contents

- ・ FIT2005報告
- ・ ヒューマン情報処理研究会活動報告
- ・ ヴァーバル・ノンヴァーバル・コミュニケーション研究会活動報告
- ・ HCGシンポジウムご案内
- ・ 研究会・関連行事カレンダー

FIT2005(情報科学技術フォーラム)報告
 企画幹事 大和淳司
 (NTTコミュニケーション科学基礎研究所)

FIT2005は、予定通り2005年9月7日(水)～9日(金)の日程で、中央大学後楽園キャンパスにて開催されました。開催状況などについて、ここにご報告いたします。

今回のFITも前回のFITに引き続き台風にまわれましたが、初日に若干の影響(九州、四国方面からの講演者の欠講)があった程度で、総参加者数は1822名とほぼ前回なみの参加をいただきました。講演申込総数が昨年よりも減少したものの、参加者数が同程度であったのは、都心開催と、直前まで関係各方面の皆さまに、メール等での参加募集にご協力いただいたおかげと感謝致します。

【概況】

(1) 各種参加者数

- ・ 講演者数: 740名(前回836名)
- ・ 聴講者数: 806名(前回694名)
- ・ 総参加者数: 1,822名(前回1,916名)
- ・ 懇親会: 120名(前回147名)

(2) イベント企画

招待講演(船井業績賞:坂村健先生)、研究会提案企画12件、委員会提案企画8件、現地提案企画1件、FIT論文賞セッション、計22のイベント企画が開催されました。

(3) 船井ベストペーパー賞、FIT2005論文賞受賞者報告

船井ベスト3件、FIT2005論文賞4件の受賞報告がされました。

本年度の船井業績賞は、坂村健先生(東京大学)、船井ベストペーパー賞は、「携帯電話用プロセッサで動作する大語彙連続音声認識の並列処理」(石川晋也・山畑潔・磯谷亮輔・奥村明俊、NEC)、「仮想音環境のための頭部伝達関数コーパス」(渡邊寛治・岩谷幸雄・行場次郎・鈴木陽一、東北大学)、「表情譜:タイミング構造に基づく表情の記述・生成・認識」(川嶋宏彰・西山正紘・松山隆司、京都大学)の各氏に贈られました。

FITでは、年々イベント企画が充実してきております。2003年12企画、2004年18企画、200

5年は22企画に上っております。

2005年の企画では、特に、「フェロー&マスタースピーチ講演会」、「脳科学と情報科学はどう融合していくのか」、「国家的課題としての情報セキュリティ人材育成」、「船井業績賞記念パネル討論:ユビキタス社会の担い手は何か?」などが多くの参加者を集め、関心の高さを示していました。

上記の通り、参加者数は前回に比べわずかながら減少傾向にあります。しかしながら、聴講参加者は前回よりも増加しております。これは、都心の地の利もさることながら、直前まで各学会関連のメーリングリスト・webなどで周知を行ったことの効果があったものと思われまます。ご協力頂きました関係者の皆さまに感謝いたします。発表者の減少は運営にとって収支面では困難となりますが、今回は支出の切り詰めや開催校(中央大学様)よりの補助金などにより全体では若干の黒字を計上することができました。こういった面からも、会員皆様の発表・聴講のご参加や、関心を集めるイベント企画など、是非ご協力をお願いいたします。

【FIT2006について】

FIT2006は、2006年9月5日(火)～7日(木)の日程で、福岡大学を会場として実施予定です。

体制は、実行委員長:雨宮真人教授(九大)、プログラム委員長:湯浅太一教授(京大)、現地委員長:首藤公昭教授(福岡大学)をお願いしております。

すでに企画準備など進められている方々、実行委員・プログラム委員の皆様をはじめとして、会員皆さまの積極的な参加を是非お願い致します。

【その他】

FITは、電子情報通信学会のISSとHCG、さらに情報処理学会による共催であります。FITに提出された論文をさらに発展させた論文を募集し、電子情報通信学会論文誌(D分冊)と情報処理学会論文誌で、毎年交互に特集を組むこととなりました。まず初回は情報処理学会論文誌「情報処理技術のフロンティア」特集号が組まれることとなります。FIT投稿後の発表の場として、是非有効に活用していただけるようお願い致します。

ヒューマン情報処理研究会
-2005年度の研究会活動を中心に-
HIP委員長 矢野澄男 (NHK)

ヒューマン情報処理研究委員会は、ヒューマンコミュニケーショングループ(HCG)内での四つの第一種研究会の一つであり、主に、感覚・知覚機能、認知・認識機構、および、感性・情動の受容・生成などを研究対象とし、さらに、これらの研究から得られた知見に基づき、工学的な応用を目標とする研究をも包括した学際的な研究領域を対象としています。

本研究委員会の主要な役割である研究会は年に6回開催しています。開催時期は春から初夏、秋から冬の季節とし、加えて、例年、春に開催される総合大会時に、他のHCGの研究会と共に開催しています。また、各研究会では、担当幹事のもとテーマを定め、講演者を募りますが、通常は、一般テーマも募集し、可能な限り、研究会がもつ研究結果の速報性にも対応可能な体制をとっています。

例えば、2005年度の各研究会でのテーマは、「6月開催(立命館大学):視聴覚情報処理」、「7月開催(沖縄大学):実・仮想空間での感覚知覚とその応用」、「10月開催(琉球大学):手と脳の情報処理」、「12月開催(東北大学):感性情報処理の基礎と応用」、「1月開催(大阪大学):ユビキタスメディアの将来展望」であり、3月はHCGとしての開催(東工大)のため、特段のテーマの設定は行っていません。このように、基礎的な視聴覚、感性、運動制御等を対象とするほかに、インタフェースとしても重要な仮想空間、あるいは、近年、話題にあがることの多いユビキタスメディアなどを取り上げています。なお、()内は研究会の開催地です。

また、各研究会では、本学会の他の研究委員会との共催のみならず、関連する他学会・研究会との共催をも積極的に行い、可能な限り関連した研究分野の多くの講演発表がなされ、情報の共有のみならず、人的なネットワークの構築の一助となるようにも努め、研究委員会としての役割を果たす努力をしています。2005年度の例では、「6月:映像メディア学会ヒューマンインフォメーション研究会」、「7月:VR学会心理学研究会」、「10月:VR学会手と脳の研究会」、「12月:東北大音響工学研究会」、「1月:信学会PRMU研究会、VR学会複合現実感研究会」等で研究会を共催、運営しました。

なお、昨年10月の研究会では、主に招待講演を中心におき、「手と脳の情報処理」に関して生理・医学、心理学、脳科学、ロボット工学、コンピュータサイエンス、あるいは、舞踊の分野で、著名な方々に講演依頼し、シンポジウム形式として開催しました。同時に、時間的な枠は厳しいものの、研究会として責務である一般講演もあわせて募集しました。各分野の著名な研究者の方々に招待講演を依頼しましたが、一研究会では、財政規模を含めて、手に余るような試みではありました。幸いにも、好評のうちに開催、終了することができました。これは、一つには研究会を担当した幹事の情熱と努力によるものが多かったと考えられます。また、その情熱と意志に、賛同され、ほとんど「手弁当」で講演を受諾戴いた各研究者の「心の温かさ」でもあったのではないかと結論付けています。今後も、財政状況、あるいは、担当するスタッフの絶対的な不足等などはありますが、研究会として、「役立つ研究会」を目指して、企画、開催を心がけていきたいと考えています。

さらに、研究会を議論する専門委員の会合を通常は年2回開催しています。第1回目は、年度の最初の研究会で行い、第2回目は、年末頃の研究会と同日程で行っています。前者では、特に、年間計画とその運用で留意すべき点等に関しての意見をお願いし、後者では、年間の運営体制への意見と翌年度の幹事体制、および、運営方法に対して議論をお願いしています。本研究委員会は、広範囲な領域を対象としており、研究会に対する意見、議論もさまざまな観点から行われています。しかしながら、専門委員会は、必ずしも充分な機能を、現状では果たしておらず、今後の課題の一つとも言えると思われます。

以上、2005年度の活動を振り返ることを基本にしなが、ヒューマン情報処理研究委員会の活動の一端を報告させていただきました。学会の研究会がいかにあるべきかは様々な意見があるとは思いますが、ヒューマン情報処理研究会は、研究動向の把握、研究成果の発表、研究者の鼓舞などの場であることを基本として、異なる学問領域とは言え、同一の研究テーマを志す人々に「役に立つ十字路」でありたいと考えています。

ヴァーバル・ノンヴァーバル・コミュニケーション
(VNV)活動報告

VNV委員長 岡本雅史(東京大学)

1. はじめに

近年のコンピュータ技術の急速な進展により、コンピュータはそれを用いる人間の生活環境において不可欠なものとなってきています。それは、時には巨大な情報・知識空間である World Wide Web への案内人であり、また現実社会の場面では人間同士のコミュニケーションを陰ながら支える良き仲介者でもあります。現実社会であれ仮想空間であれ、コンピュータとのインタラクションやコミュニケーションは、今後われわれにとってますますその必要性を増すであろうことは想像に難くありません。従って、情報工学の分野では、人間とコンピュータの間でいかにして円滑なコミュニケーションを成立させることが可能であるかが議論の中心となる場面が近年数多く見られるようになってきています。

翻って考えるに、これまでのコミュニケーション研究において中心的な課題として想定されてきたのは、人間同士のコミュニケーションにおけるシンボル操作、特に言語情報の伝達と理解のメカニズムでした。しかし、コンピュータは元々シンボル操作に適したのですが、単に人間がコンピュータを利用するだけでなく、積極的に意思疎通を図ろうとした場合、そうしたシンボル操作だけでは限界があることは明白です。従って、映像や音声などのマルチモダリティ技術の進展とも呼応する形で、人間同士のコミュニケーションを支える非言語情報の役割を解明し、それを人間とコンピュータ間のコミュニケーションの確立に役立てていく必要があります。

ヴァーバル・ノンヴァーバル・コミュニケーション研究会(以下VNV)はこのような問題意識を背景として、人間同士のコミュニケーションを支える言語(ヴァーバル)情報と非言語(ノンヴァーバル)情報の役割に焦点を当て、両者の効果的な統合により人間とコンピュータ間のコミュニケーションを円滑にする技術と、説明力のあるコミュニケーション・モデルの構築を目指し、2005年10月にHCGの第3種研究会として設立されることとなりました。

2. VNVの活動目標

VNVが最終的に想定する目標は「言語情報と非言語情報の効果的な統合に基づく、人間=コンピュータ間コミュニケーションの円滑化技術の開発、およびコミュニケーション・モデルの構築」

です。しかしながら、研究の性質上、文理融合的な側面が強いため、拙速な工学的技術開発よりもむしろコミュニケーションにおける言語情報と非言語情報の役割の解明」という問題意識の共有といった形での議論の深化を重視しています。

具体的には、情報工学、認知科学、心理学、言語学、社会学、人類学といった様々な分野で活躍する若手研究者を中心に、ややもすれば発表者による一方向的な情報提供という形に陥りやすい学会形式の運営を避け、個々人の研究発表をトリガーとした広域的なディスカッションを展開していく点をVNVの最大の特色としています。また、言語コミュニケーション・非言語コミュニケーションについてのサーベイによる知識共有も、メンバー間のディスカッションの有機的な相互作用と新しいアイデアの創発を促進することが期待されるため積極的に行いたいと考えています。

3. VNVの活動形式

運営方針としては、コアメンバー約10~20名と自由参加者による隔月での研究会開催を基本とし、毎回1名の話者提供者を指名します。また、研究会における実際のディスカッションの議事録を(VNV-blog)として会員にのみ随時閲覧可能な形で公開しています。これは、実際の研究成果として収束する前の「生の」ディスカッションの中に、未完成であっても多くの無視できないアイデアの萌芽が認められると考えるからで、またそのような可能性を持ったインタラクティブな研究会にしていくべきだという我々の主張も含まれています。さらに隔月での研究会の他に、アニュアルミーティングとして、他学会でのワークショップやチュートリアル、企画セッションなどの開催も予定しています。

また、近いうちに(VNV-pedia)として、研究会でのディスカッションを元にした知識共有サイトを立ち上げる予定でありますので、本研究会の活動成果をまとめた形で外部に発信していくことも積極的に進めていきたいと考えています。

このように、VNVはHCGにおいて第3種研究会としての特性を生かし、小規模でありながら個性的な活動を行っております。基本的にはセミクローズドな運営方針ですので、大々的に一般参加者や発表者を募ることは致しませんが、会員資格等に関して何ら制限はございませんので、ご興味のある方は是非VNV運営委員会(vnv-committee@ii.ist.i.kyoto-u.ac.jp)までお問い合わせ下さい。

ヒューマンコミュニケーショングループ
シンポジウムご案内

企画幹事 佐藤誠(東京工業大学)

電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ(HCG)では、恒例となりましたグループシンポジウムを開催致します。シンポジウムは、例年通り HCG 傘下の4研究会と第2種研究会「Webインテリジェンスとインタラクション」が同時開催の形で開きます。本年度は、国土館大学で開催される本会総合大会(3月24日-27日)に先立ち、3月22日と23日、東京工業大学大岡山キャンパスにて開催することになりました。奮ってご参加よろしくお祈いします。

なお、下記の公開シンポジウムを特別企画として予定しています。

■HCG シンポジウム概要

【日時】平成18年3月22日(水) 9:00-18:30
23日(木) 9:00-18:30

※なお、総合大会は24日~27日国土館大学にて開催されます。

【会場】東京工業大学 大岡山キャンパス内
西9号館3階を予定

※23日 12:00~13:30に懇談昼食会(学生食堂2階)とヒューマンコミュニケーション賞(HC賞)の贈呈式も行う予定です。

■HCG特別企画(予定) 公開シンポジウム
「行為の認識と生成」

行為の認識と生成は、表裏一体となって脳内で実現されていることが明らかにされつつあります。このような知見に基づき、さまざまな工学的研究も進められています。ヒューマンコミュニケーションを考える上でも重要な視点であると思われます。この分野の先駆的な研究者にお話いただき、討論を行う予定です。

【日時】平成18年3月23日 13:30~16:00

【会場】東京工業大学
大岡山キャンパス内9号館3階

【シンポジスト】 國吉康夫(東大)
尾形哲也(京大)
峯松信明(東大)
村田哲(近畿大)

【司会】 HCG委員長 乾敏郎(京大)

■HCG シンポジウム申し込み先

●ヒューマンコミュニケーション基礎研究会
(HCS)

☆青木義満(芝浦工大)

E-mail: yaoki@sic.shibaura-it.ac.jp
TEL/FAX: 048-687-5071

●ヒューマン情報処理研究会(HIP)

☆深山 篤(NTT)

E-mail: fukayama.atsushi@lab.ntt.co.jp
TEL: 0422-59-3943、FAX: 0422-59-5509

●マルチメディア・仮想環境基礎研究会(MVE)

☆亀田 能成(筑波大)

Web: <http://www.ieice.org/~mve>
(申込はこちらからお願いします)

e-mail: mve-apply@mail.ieice.org
TEL/FAX: 029-853-5256

●福祉情報工学研究会(WIT)

☆中山 剛(国立身体障害者リハビリテーションセンター研究所)

E-mail: nakayama@rehab.go.jp
TEL(042)995-3100 内線 2569
FAX:(042)995-3132

●Webインテリジェンスとインタラクション研究会(WI2)

☆櫻井茂明(東芝)

E-mail: shigeaki.sakurai@toshiba.co.jp
TEL (044)549-2398、FAX (044)520-1308

ヒューマンコミュニケーショングループ
研究会・関連行事カレンダー

詳しくは、HCGホームページ
<http://www.ieice.org/hcg/jpn/> をご覧ください

— 2006年3月 —

★HCG シンポジウム

【期日】2006年3月22日(水)~23日(木)
【会場】東京工業大学(大岡山キャンパス)

★マルチメディア・仮想環境基礎研究会

【期日】2006年3月27日(月) 13:20-17:00
【会場】国土館大学世田谷キャンパス(東京都)
【題目】HK-1. Needs からみたユビキタス環境構築術
【備考】電子情報通信学会 2006年総合大会中のソサイエティ特別企画です。

— 2006年5月 —

★ヒューマン情報処理研究会

【期日】2006年5月29日(月)~30日(火)
【会場】サンポートホール高松(香川)
【題目】「コミュニケーション支援」及び一般